

令和4年度 障がい理解啓発に関する出張授業

1 目的

- (1) 障がいの疑似体験を通じて障がいについて理解を深める。多様性を認め合い、ともに支え合う「共生社会」について考える機会づくりとする。
- (2) 大田区立志茂田福祉センターの利用者の様子から、個々に応じた様々な支援を受けることで生き生きと日中生活を送っていることを知る。
- (3) 障がいがあってもなくても安心して暮らすことのできる社会をつくるための法律について学び、自分たちにできることを考える。

2 日時

令和4年9月15日（木） 10時20分から12時15分まで

3 場所及び対象学年

志茂田小学校 4年生児童（49名）

4 内容

- ア 障がい特性を知ろう
- イ 知的障がいがある人がどのようなことに困っているか、何を感じているか体験しよう
- ウ 障がいについて考え、自分たちに何ができるか考えよう（アンケート記入）
- エ 志茂田福祉センターでの仕事風景（障がい特性に応じた工夫の仕方）

5 講師

大田区手をつなぐ育成会
心のバリアフリーすすめ隊
志茂田福祉センター職員

6 結果

障がい体験や障がい特性を学ぶことで、障がい者が困っていること、感じていることを考える機会となった。

また、障がい者を支援するための工夫の仕方などを学んだことで、自分たちにも何かできることがあると感じてもらえた。

（アンケートの主な意見は裏面に記載）

1 障がい特性について

(主な感想)

- ・障がいの人はすごく大変だと思った。
- ・自分とはちょっと違うけど、頑張っていることが分かった。
- ・知的障がいの人は工夫をすればいろいろなことができると思った。
- ・知的障がいの人は、早口で話したり、一度にたくさんをいわれるとわからなくなってしまうので、ゆっくりはっきりとわかりやすい言葉で伝えたい。
- ・知的障がいの人は、いつもと違うことをすると不安になることが分かった。
- ・障がいはとても大変だけれど、私たちと同じように、嬉しいことや楽しいことがあると思った。
- ・自分よりもたくさん大変なことがあることが分かった。

2 体験してみて

(主な感想)

- ・作業が大変だった。
- ・障がいがあることで細かい作業がむずかしいと思った。
- ・障がいのある人の苦労が分かった。
- ・時間制限があって、かなり焦って作業した。知的障がいの人の気持ちが分かった。
- ・(大きな手袋をして細かい作業をすることで体を思うように動かせない) 障がいの大変さがよく分かった。

3 体験や話を聞いてどのように思ったか

(主な感想)

- ・障がいのある人を助けたいと思った。
- ・話すときは、わかりやすい言葉で、ゆっくり、はっきりと話したい。
- ・知的障がいのある人は心配なことも多いが、少しの工夫で助けられることが分かった。
- ・障がいのある人は頑張っていてすごいと思った。
- ・同じ町に住んでいる仲間だと思いたい。誰でも暮らしやすいようにしたい。
- ・何にも思っていなかったが、大変だということが分かった。
- ・障がい者のことを、変に思わなくなった。
- ・障がい者は自分とは違うと思っていたけれど、同じ人間だと思った。
- ・頑張っているから、手伝いたいと思った。
- ・知的障がいの人でも他の人と同じだから、差別をする人がいるというのがとても不愉快だった。